

トロイア戦争

【神々の饗宴】

海の女神 Thetis(テティス)と Aigina(アイギナ)島の王子 Peleus(ペレウス)の婚礼の祝宴で、Orympos(オリュポス)の神々が招待されました。このとき、嫉妬と争いの女神 Eris(エリス)のみ招待されなかったのです。

宴会が最も盛り上がっている最中に、女神 Eris(エリス)が突然現れ、『最も美しい女神へ』と書かれた黄金の林檎を投げ込みました。女神たちはみな、「これは私に贈られたもの」と言って取り合いをしました。宴会は滅茶苦茶になり、最後まで譲らず争ったのが、次の3人の女神でした。

Hera(ヘラ)[羅・英 Juno(ユノ・ジュノー)] (Zeus(ゼウス)の妻、女神の最高位)

Athena(アテナ)[羅・英 Minerva(ミネルヴァ・ミネルヴァ)] (戦いの女神)

Aphrodite(アフロディテ)[羅・英 Venus(ヴェヌス・ヴァーナス)] (愛の女神)

3人の女神は、最高神 Zeus(ゼウス)[羅・英 Jupiter(ユピテル・ジュピター)]に審判をお願いするのですが、Zeus(ゼウス)は自分で結論を出すのを拒絶しました。

【パリスの審判】

Zeus(ゼウス)は審判を **Troia(トロイア)の王子 Paris(パリス)**に押し付けることにしました。Zeus(ゼウス)から使者として指名された Hermes(ヘルメス)[羅 Mercurius(メルクリウス), 英 Mercury(マーキュリー)]が案内役となり、3人の女神を連れて、Paris(パリス)のもとに向かいました。Troia(トロイア)の王 Priamos(プリアモス)は、『息子の Paris(パリス)が Troia(トロイア)を破滅させる』という神託に従い、Paris(パリス)を Troia(トロイア)から遠ざけるため Ide(イデ)山に行かせていましたが、Hermes(ヘルメス)は容易に Paris(パリス)を見つけ、3人の女神に会わせました。

3人の女神は自分が選ばれるように、買収工作を行いました。具体的には、Hera(ヘラ)「あなたをアジア全土の王にしてあげる。」

Athena(アテナ)「あなたの行う戦争をすべて勝たせてあげる。」

Aphrodite(アフロディテ)「あなたを人間の中で最も美しい女性と結婚させてあげる。」

と言って、Paris(パリス)に自分を選ぶように主張しました。

この買収工作を受けて、Paris(パリス)は Aphrodite(アフロディテ)を選び、

『最も美しい女神』は Aphrodite(アフロディテ)と決定し、この争いに決着がつけました。

『波田陽区のギター侍』より

♪私アプロディテ。愛の女神のアプロディテ。

「女神の中で、一番美しいのは、ワ・タ・シ」

って、言うんじゃな〜い。

でも、あんたが一番なのは、厚かましさと狡さですから！ 残念！

あざと女神斬り。

【ヘレネの誘拐(?)】

当時、最も美しい人間の女性は Sparta(スパルタ)の王 Menelaos(メネオス)の妻の Helene(ヘレネ)[羅 Helena(ヘレナ),英 Helen(ヘレン)](最高神 Zeus(ゼウス)と先代 Sparta(スパルタ)王 Tyndareos(ティンダロス)の妻 Leda(レダ)の娘)と言われていました。

(注)世界三大美女は『ヘレネ、クレオパトラ、楊貴妃』と言われています。ただし、日本では、『小野小町、クレオパトラ、楊貴妃』と言われています。

Aphrodite(アフロディテ)は、Paris(パリス)に Helene(ヘレネ)を誘拐するように勧め、2人で Sparta(スパルタ)の宮殿に行き、Menelaos(メネオス)王に面会します。2人の思惑を知らない Menelaos(メネオス)王は、2人を丁重にもてなし、滞在を認めました。Menelaos(メネオス)王が仕事で城を離れる機会があり、Menelaos(メネオス)王の留守中に Aphrodite(アフロディテ)と Paris(パリス)は Helene(ヘレネ)を誘拐して、Troia(トロイア)の宮殿に帰って行きました。Kassandra(カッサンドラ) (Troia(トロイア)の王女、Paris(パリス)の妹)は、「Helene(ヘレネ)をすぐに Menelaos(メネオス)王に返さないと、Troia(トロイア)が大きな災難に襲われる。」と予言しますが、誰一人聞き入れず、Helene(ヘレネ)は Paris(パリス)王子の妻として認められました。

【ヘレネの引き渡し交渉】

宮殿に戻った Menelaos(メネオス)王は、この件『ヘレネの誘拐』について、兄の Agamemnon (アガ멤ノン) (Mykenai(ミュケナイ)の王)に相談します。Agamemnon (アガ멤ノン)は、Mykenai(ミュケナイ)の王であるだけでなく、ギリシア全土の王たちの中の盟王です。Agamemnon (アガ멤ノン)と Menelaos(メネオス)は、Odysseus(オデュッセウス) (Ithake(イタケ)島の王)を誘って Troia(トロイア)に行き、Paris(パリス)に Helene(ヘレネ)の引き渡しを求めました。しかし、Paris(パリス)はこれを断固拒否しました。

【トロイア戦争勃発】

ギリシアに戻った3人は、Helene(ヘレネ)の奪還とトロイア懲罰を目的として、ギリシア全土の王たちを集め、Agamemnon (アガ멤ノン)を総大将とする遠征軍 Akhaioi(アカイア勢)を組織することにしました。

【トロイア戦争における両軍】

《Akhaioi(アカイア勢)》

Agamemnon (アガメムノン) (Mykenai(ミュケナイ)の王で全ギリシアの盟王, Akhaioi(アカイア勢)の総大将)

Menelaos(メネオス) (Sparta(スパルタ)の王)

Odysseus(オデュッセウス) (Ithake(イタケ)島の王)

Aias(アイアス)[羅・英 Ajax(アイアクス・エイジャックス)] (Salamis(サラミス)島の王)

Idomeneus(イドメネウス) (Kreta(クレタ)島の王, Kreta(クレタ)島の初代王 Minos(ミノス)の孫)

Achilleus(アキレウス)[羅・英 Achilles(アキレス・アキリーズ)] ((Thetis(テティス)と Peleus(ペレウス)の子)

Neoptolemos(ネオプトレモス) (トロイア戦争最大の英雄 Achilles(アキレウス)の息子)

など

(Akhaioi(アカイア勢)を応援した神)

Hera(ヘラ)[羅・英 Juno(ユノ・ジュノー)] (最高神ゼウスの妻)

Athena(アテナ)[羅・英 Minerva(ミネルヴァ・ミネルヴァ)] (戦いの女神)

Poseidon(ポセイドン)[羅 Neptunus(ネプトゥヌス), 英 Neptune(ネプチューン)] (海の神)

Hermes(ヘルメス)[羅 Mercurius(メルクリウス), 英 Mercury(マーキュリー)] (最高神ゼウスの使者))

Hephaistos(ヘパイストス)[羅 Vulcanus(ウルカヌス), 英 Vulcan(バルカン)] (火と鍛冶の神)

《Troia(トロイア)軍》

Priamos(プリアモス) (Troia(トロイア)の王, 老齢のため戦争には不参加)

Hektor(ヘクトル) (Troia(トロイア)の王子(長男), 総大将)

Paris(パリス) (Troia(トロイア)の王子(次男))

Aineias(アイネイアス) (Troia(トロイア)の王女 Kreousa(クレウサ)の夫, Aphrodite(アフロデイト)と Anchises(アンキセス)の息子)

Kassandra(カッサンドラ) (Troia(トロイア)の王女, Apollon(アポロン)から予言の能力を授かる。戦争には不参加で, 予言を伝える。)

Laocoon(ラオコン) (Troia(トロイア)のアポロン神殿の神官。戦争には不参加で, 神のお告げを伝える。)

など

(Troia(トロイア)軍を応援した神)

Aphrodite(アフロデイト)[羅・英 Venus(ヴェヌス・ヴァーナス)] (愛の女神)

Apollon(アポロン)[羅・英 Apollo(アポロ)] (弓と予言の神)

Artemis(アルテミス)[羅・英 Diana(ディアナ・ダイアナ)] (狩猟の女神)

Ares(アレス)[羅・英 Mars(マルス・マーズ)] (戦いの神)

【パリスの死】

Paris(パリス)は Troia(トロイ)の王 Priamos(プリアモス)の子供として生まれました。生まれたときの名称は Arexandros(アレクサンドロス)でした。Priamos(プリアモス)王は『息子の Arexandros(アレクサンドロス)が Troia(トロイ)を破滅させる』という神託に従い、部下に命じて Arexandros(アレクサンドロス)を Troia(トロイ)から離れた Ide(イデ)山に連れて行き殺すように命じました。しかし、部下は殺すのを躊躇い、殺さずにそのまま捨ててきました。Arexandros(アレクサンドロス)は幸いにも Ide(イデ)山の羊飼いに発見され、Paris(パリス)と名付けられました。成長した Paris(パリス)は羊飼いの仕事を受け継ぎ、その地に住む Oinone(オイノネ)と結婚しました。Paris(パリス)が Aphrodite(アフロディテ)に Helene(ヘレネ)を誘拐するように唆されたことを知った Oinone(オイノネ)は、誘拐を止めようとして説得を試みますが、Paris(パリス)は聞く耳を持ちませんでした。説得が無理だと悟った Oinone(オイノネ)は「もし、誰も治せない傷を負ったら、それを治せるのは自分だけだから、そのときは戻ってくるといい。」と言って、しぶしぶ送り出しました。

Paris(パリス)はトロイア戦争において、兄 Hektor(ヘクトル)に次ぐ活躍をしています。特に、敵軍最大の英雄 Achilles(アキレス)を、Apollon(アポロン)の助けを借りて弓で討ち取ったことで、Troia(トロイ)軍は大いに沸き、士気も高まり、この戦争で優勢に立ちました。しかし、その後に Paris(パリス)は、敵軍の Philoktetes(ピロクテテス)の放った Herakles(ヘラクレス)の矢により瀕死の重傷を負いました。Paris(パリス)はこの重傷の体で Ide(イデ)山の Oinone(オイノネ)のところに行き、自分の命を救うようお願いしましたが、追い返されてしまったのです。Paris(パリス)は Ide(イデ)山を降りていく途中で命が尽き果てました。この知らせを聞いて後悔をした Oinone(オイノネ)は、Paris(パリス)の火葬場に行き、火葬の炎の中に飛び込んで自殺しました。

【トロイアの木馬】

戦争が始まってから何年もの月日が経ちました。どのくらい経ったかは、この戦争に途中から Thetis(テティス)と Peleus(ペレウス)の子である Achilles(アキレス)が参戦して、この戦争の最大の英雄と言われたこと、さらに、その英雄 Achilles(アキレス)が戦死した後に、その息子の Neoptolemos(ネオプトレモス)が参戦したことからわかります。

ギリシア、トロイアの双方とも偉大な英雄たちが命を落としていくのですが、戦いは Ilios(イリオス)の城壁の外で行われていて、遠征軍は Ilios(イリオス)の城塞に入ることができずにいました。遠征軍は Ilios(イリオス)を陥落させることができないまま月日が経ち、この遠征は失敗に終わろうとしていました。そのとき、Odysseus(オデュッセウス)は、女神 Athena(アテナ)に靈感を与えられ、木馬を利用する作戦を考案しました。巨大な木馬には『女神アテナに捧げる』と彫り、お腹の中には Odysseus(オデュッセウス)などの戦士を隠し、Ilios(イリオス)の城門の前に置いて、他の戦士は前線基地を放棄して、船に乗って出ていきました。

トロイア軍に「敵は諦めて立ち去った」と思わせる作戦です。実際には、船は近くの島に隠れていました。木馬を見つけたトロイアの兵士は、これは奉納品であり、我々の戦利品だと考え、城内に持っていかうと言いました。しかし、王女 Cassandra(カッサンドラ)と神官 Laocoön(ラオコーン)だけは、城内に運ぶことを反対しましたが、Laocoön(ラオコーン)は2人の子供とともに海から出てきた2匹の大蛇に襲われ、Cassandra(カッサンドラ)のいうことは誰も聞きませんでした。そのため、トロイア軍は城内に木馬を運び入れたのです。

【イリオス陥落】

木馬を城内に引き入れたトロイアの戦士たちは、勝利を記念して、祝杯を挙げ、夜遅くまで酒を飲んでいました。トロイアの戦士はみな酔いつぶれていて、ほとんどは眠りについていました。このとき、木馬のお腹の中に隠れていた兵士が Odysseus(オデュッセウス)を先頭にして一斉に外に出て、酔いつぶれていたトロイアの兵士たちに襲い掛かりました。さらに、近くの島に隠れていた他の戦士たちも城門の前まで来ていて、中にいたアカイヤ遠征軍の兵士たちが内側から城門を開けることに成功し、トロイアの城塞はアカイヤ遠征軍の兵士であふれました。トロイアの戦士たちの中にも反撃するものはいて、特に Aineias(アイネイアス)はたくさんアカイヤ遠征軍の兵士を倒しましたが、トロイア軍の劣勢は変わりません。そして、とうとう宮殿の中にいた Troia(トロイア)の王 Priamos(プリアモス)が、Achilleus(アキレス)の息子 Neoptolemos(ネオプトレモス)によって殺されました。宮殿内もアカイヤ遠征軍の兵士であふれ、とうとう Ilios(イリオス)の城塞は陥落しました。

【イリオス炎上】

アカイヤ遠征軍の兵士たちは、城だけでなく、すべての家を焼き尽くすように火を付けました。そして、アカイヤ遠征軍の兵士たちは、戦利品を持って Ilios(イリオス)から去っていきました。Ilios(イリオス)全体が火の海になりました。その中からトロイア人で逃げることもできたのは、ほんのわずかで、その中に Aineias(アイネイアス)がいます。Aineias(アイネイアス)は、その年老いた父親の Anchises(アンキセス)を背中に負ぶって脱出しました。彼らが逃げることもできたのは女神 Aphrodite(アフロディテ)の導きによるものです。

(注) Ilios(イリオス)全体が火の海になり、そこから Aineias(アイネイアス)がその年老いた父親の Anchises(アンキセス)を背中に負ぶって脱出する様子は『**トロイアを逃れるアイネイアス**』と言われ、絵画の題材として使われることもあります。ギリシア神話の中には、子供用の絵本になっているものもあり、トロイア戦争も絵本になっています。そのトロイア戦争の絵本の挿絵に『**トロイアを逃れるアイネイアス**』があり、7歳の時の Schliemann(シュリーマン)は大人になったら「必ず Troia(トロイア)の町を探しに行く」と心に誓っていました。